

抗がん剤を安全に実施するため

－閉鎖式回路を目指して－

市立堺病院 薬剤・技術部部長 阿南節子

本邦では、1981 年に「がん」が死因の 1 位になって以来、現在に至るまで罹患率・死亡率とも右肩上がりに増加している。年間のがん罹患数は約 50 万人、死亡数は 30 万人と推測されるが、2015 年までの予測においてもがんの罹患率・死亡率とも増加傾向は継続すると考えられている。

一方、1990 年以降、欧米においては罹患率の減少傾向はみられないものの、死亡率減少傾向が著しい。死亡率減少の要因は、スクリーニング(検診)の充実とアジュバント(手術後補助療法)の完遂と分析されている。

このような背景から、第 3 次対がん 10 ヶ年戦略において、全国どこでも質の高いがん医療を受けることができるよう「均てん化」を図ることが主要戦略目標の 1 つとされ、多くの施設でがん化学療法が実施されるようになってきている。

がん化学療法における薬剤師の役割としては、インフォームド・コンセントのサポート、化学療法の安全な実施のためのレジメンチェック、抗がん剤のミキシング、副作用対策、各種マニュアル・説明文書の整備などの多様な業務が期待されている。このような多様な業務の中でも、抗がん剤を安全に取り扱うためにはレジメンチェックと抗がん剤のミキシングは最も基本的な業務である。抗がん剤のミキシングを安全に実施するためには、それぞれの薬剤特性と手順を熟知したうえで、安全キャビネット・個人用保護具の適切な使用に加え、閉鎖式回路を用いることが必要と考えられる。